

学 位 論 文 審 査 要 旨      公開審査日 2018年2月28日(水)

報告番号：甲・㉔ 第 2133 号	氏名： 田中 博史	
論文審査 担当者	主査 教授 羽生 春夫 印	副査 教授 相澤 仁志 印
		副査 教授 山本 謙吾 印
<p><b>審査論文の題目：</b>日本人高齢者の社会参加と身体的虚弱との関連：国民健康・栄養調査を用いた横断研究</p> <p><b>著 者：</b>田中博史、菊池宏幸、小田切優子、高宮朋子、福島教照、大谷由美子、井上茂</p> <p><b>掲載誌：</b>東京医科大学雑誌 第76巻第1号（2018年掲載予定）</p> <p><b>論文要旨：</b>本研究は、国民健康・栄養調査のデータを2次利用し、日本人高齢者の社会参加と身体的虚弱の関連を明らかにすることを目的とした。対象者は、身体活動の重点調査年であった平成18年の国民健康・栄養調査に協力した65歳以上の2,323名とした。身体的虚弱の評価は、Friedらのフレイルの定義を考慮し、①体力が低い、②やせている、③歩数が少ない、④歩行速度が遅い、の4項目のうち、3項目以上該当した場合とした。社会参加は、老人クラブ、ボランティア活動等5項目について評価し、身体的虚弱を従属変数、社会参加を独立変数とした。ロジスティック回帰分析の結果、男女とも社会参加が低い高齢者は、高い高齢者に比べ身体的虚弱である割合が、性、年齢等の個人要因を調整しても有意に高かった(男性OR:1.84、CI:1.02-3.30、女性OR:2.43、CI:1.51-3.90)。本研究の結果より、日本人高齢者において、社会参加を促進することは、身体活動および体力を高い水準で維持し、身体的虚弱を予防する可能性が示唆された。</p> <p><b>審査過程：</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 身体的虚弱やフレイルの定義について、質問がなされ適切な説明がなされた。</li> <li>2) 身体的フレイルと精神心理的フレイル、社会的フレイルとの関連性について、適切な説明がなされた。</li> <li>3) 調査された対象者について、背景要因や介護状況など質問がなされ適切な説明がなされた。</li> <li>4) 社会参加の方法や具体的なソーシャルサポートについて、呈示がなされた。</li> <li>5) 横断研究ではあるが、社会参加の低い高齢者が身体的虚弱へ至るメカニズムについて、十分な考察がなされた。</li> </ol> <p><b>価値判定：</b></p> <p>本研究は、国民健康・栄養調査のデータを2次利用し、社会参加が低い高齢者は社会参加が高い高齢者に比べて身体的虚弱者が有意に多いことを明らかにし、社会参加の促進が高齢者の身体的虚弱を予防する可能性が示された点で、学位論文としての価値を認める。</p>		